

上北山村の給与・定員管理等について

1 総括

(1) 人件費の状況（普通会計決算）

区分	住民基本台帳人口 (19年度末)	歳出額 A	実質収支	人件費 B	人件費率 B / A	(参考) 18年度の人件費率
19年度	人 728	千円 1,260,300	千円 141,320	千円 337,490	% 26.8	% 28.2

(2) 職員給与費の状況（普通会計決算）

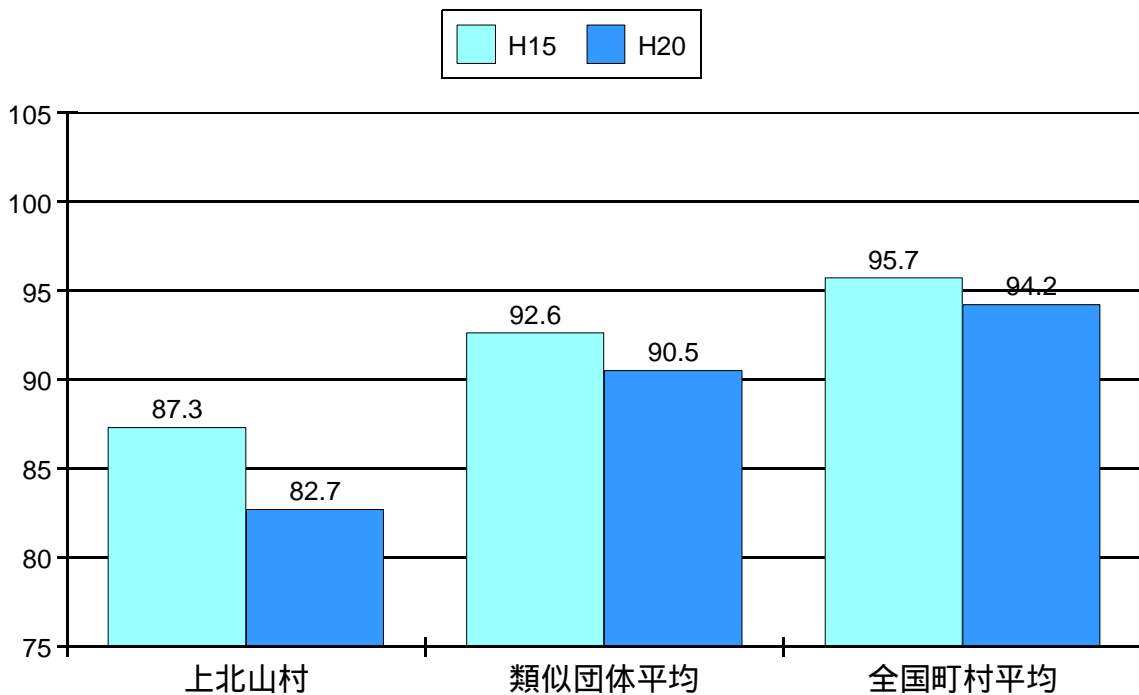
区分	職員数 A	給与				一人当たり 給与費 B/A	(参考)類似団体平均 一人当たり給与
		給料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B		
19年度	人 41	千円 137,236	千円 24,027	千円 54,649	千円 215,912	千円 5,266	千円 5,569

- (注) 1 職員手当には退職手当を含まない。
2 職員数は、平成19年4月1日現在の人数である。

(3) 特記事項

なし

(4) ラスパイレス指数の状況（各年4月1日現在）



- (注) 1 ラスパイレス指数とは、国家公務員の給与水準を100とした場合の地方公務員の給与水準を示す指数である。
2 類似団体平均とは、人口規模、産業構造が類似している団体のラスパイレス指数を単純平均したものである。

2 職員の平均給与月額、初任給等の状況

(1) 職員の平均年齢、平均給料月額及び平均給与月額の状況

(平成20年4月1日現在)

一般行政職

区分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国ベース)
上北山村	44.7 歳	288,485 円	337,067 円	319,910 円
奈良県	44.8 歳	360,707 円	441,069 円	400,936 円
国	41.1 歳	325,113 円		387,506 円
類似団体	43.3 歳	311,723 円	352,683 円	341,643 円

技能労務職

区分	公務員					民間			参考 A/B
	平均年齢	職員数	平均給料月額	平均給与月額 (A)	平均給与月額 (国ベース)	対応する民間 の類似職種	平均年齢	平均給与月額 (B)	
上北山村	54.10歳	5人	214,120円	231,994円	217,736円	-	-	-	-
うち学校給食員	53.1歳	1人	-	-	-	調理士	40.2歳	291,800円	-
うち用務員	55.3歳	4人	205,050円	218,922円	205,050円	用務員	53.9歳	225,900円	1.0
奈良県	47.3歳	274人	356,816円	412,788円	390,755円	-	-	-	-
国	48.9歳	4,784人	284,679円	-	320,623円	-	-	-	-
類似団体	49.7歳	5人	258,876円	282,952円	273,996円	-	-	-	-

区分	参考		
	年収ベース(試算値)の比較		
	公務員 (C)	民間 (D)	C/D
上北山村	-	-	-
うち学校給食員	-	-	-
うち用務員	3,516,506円	3,227,400円	1.09

民間データは、賃金構造基本統計調査において公表されているデータを使用している。(平成17年～19年の3カ年平均)

技能労務職の職種と民間の職種等の比較にあたり、年齢、業務内容、雇用形態等の点において完全に一致しているものではない。

年収ベースの「公務員(C)」及び「民間(D)」のデータは、それぞれ平均給与月額を12倍したものに、公務員においては前年度に支給された期末・勤勉手当、民間においては前年に支給された年間賞与の額を加えた試算値である。

個人が特定されるものについては公表しない。(2人以下の項目)

(注) 1 「平均給料月額」とは、平成20年4月1日現在における各職種ごとの職員の基本給の平均である。

2 「平均給与月額」とは、給料月額と毎月支払われる扶養手当、住居手当、時間外勤務手当などのすべての諸手当の額を合計したものであり、地方公務員給与実態調査において明らかにされているものである。

また、「平均給与月額(国ベース)」は、国家公務員の平均給与月額には時間外勤務手当、特殊勤務手当等の手当が含まれていないことから、比較のため国家公務員と同じベースで再計算したものである。

(2) 職員の初任給の状況（平成20年4月1日現在）

区 分		上北山村	奈良県	国
一般行政職	大学卒	172,200 円	176,118 円	172,200 円
	高校卒	140,100 円	142,333 円	140,100 円
技能労務職	高校卒	137,200 円	135,782 円	-
	中学卒	129,200 円	119,776 円	-

(3) 職員の経験年数別・学歴別平均給料月額状況（平成20年4月1日現在）

区 分		経験年数 10年以上15年未満	経験年数 15年以上20年未満	経験年数 20年以上25年未満
一般行政職	大学卒	228,360 円	274,267 円	312,200 円
	高校卒	207,050 円	228,300 円	273,267 円
技能労務職	高校卒	-	208,300 円	-
	中学卒	-	201,400 円	-

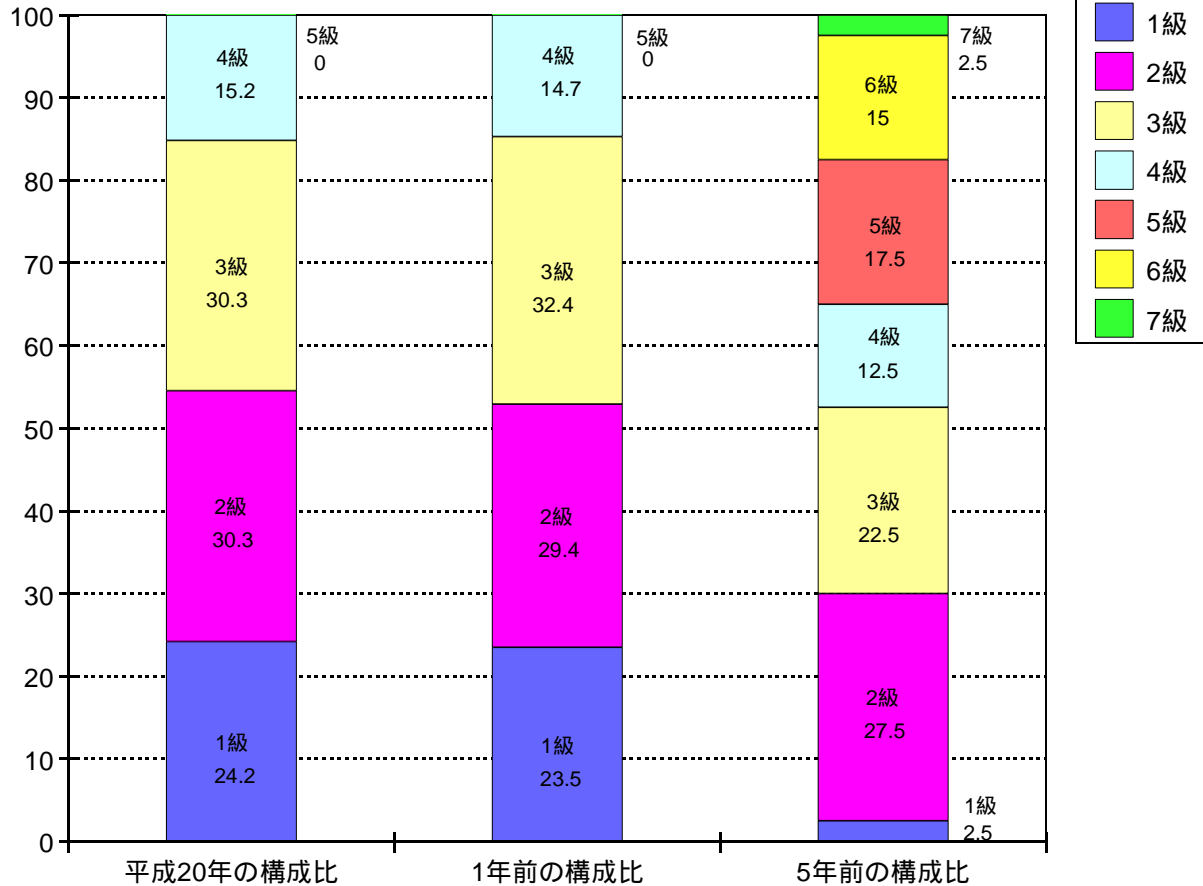
3 一般行政職の級別職員数等の状況

(1) 一般行政職の級別職員数の状況（平成20年4月1日現在）

区 分	標準的な職務内容	職員数	構成比
1 級	主事（補）・技師（補）	8 人	24.2 %
2 級	主事・技師	10 人	30.3 %
3 級	主幹・局長・主事・技師	10 人	30.3 %
4 級	課長・事務長・次長	5 人	15.2 %
5 級	総括課長	0 人	0 %

- (注) 1 上北山村の給与条例に基づく給料表の級区分による職員数である。
2 標準的な職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職務である。

(単位:%)



(注) 平成18年に7級制から5級制に変更している。(旧給料表の1級及び2級並びに4級及び5級をそれぞれ統合)

(2) 昇給への勤務成績の反映状況

人事評価が未実施であるため、昇給区分に差を設けていない。

4 職員の手当の状況

(1) 期末手当・勤勉手当

上北山村	奈良県	国
1人当たり平均支給額(平成19年度) 1,259 千円	1人当たり平均支給額(平成19年度) 1,965 千円	-
(平成19年度支給割合) 期末手当 2.9 月分 勤勉手当 1.5 月分 (1.55)月分 (0.75)月分	(平成19年度支給割合) 期末手当 3.0 月分 勤勉手当 1.5 月分 (1.6)月分 (0.75)月分	(平成19年度支給割合) 期末手当 3.0 月分 勤勉手当 1.5 月分 (1.6)月分 (0.75)月分
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 役職加算 5~10%	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 役職加算 5~20% 管理職加算 10~20%	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 役職加算 5~20% 管理職加算 10~25%

(注) ()内は、再任用職員に係る支給割合である。

【参考】勤勉手当への勤務実績の反映状況

人事評価が未実施であるため、成績率に差を設けず、一律の支給を行った。

(2) 退職手当（平成20年4月1日現在）

上 北 山 村			国		
（支給率）	自己都合	勸奨・定年	（支給率）	自己都合	勸奨・定年
勤続20年	23.50 月分	30.55 月分	勤続20年	23.50 月分	30.55 月分
勤続25年	33.50 月分	41.34 月分	勤続25年	33.50 月分	41.34 月分
勤続35年	47.50 月分	59.28 月分	勤続35年	47.50 月分	59.28 月分
最高限度額	59.28 月分	59.28 月分	最高限度額	59.28 月分	59.28 月分
その他の加算措置			その他の加算措置		
定年前早期退職特例措置（2%～20%加算）			定年前早期退職特例措置（2%～20%加算）		
1人当たり平均支給額 千円 21,251 千円					

（注）退職手当の1人当たり平均支給額は、平成19年度に退職した職員に支給された平均額である。

(3) 地域手当

（平成20年4月1日現在）

支給実績（平成19年度決算）			千円	
支給職員1人当たり平均支給年額（19年度決算）			円	
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	国の制度(支給率)	
無	0 %	人	%	
	%	人	%	
	%	人	%	
	%	人	%	
	%	人	%	

（22年度の制度完成時）

支給対象地域	支給率	国の制度(支給率)
	%	%
	%	%
	%	%
	%	%
	%	%

（注）国の制度では、平成22年度での完成を目指して、平成18年度から支給率を段階的に引き上げることとしている。

(4) 特殊勤務手当（平成20年4月1日現在）

支給実績（平成19年度決算）	600 千円		
支給職員1人当たり平均支給年額（平成19年度決算）	200,000 円		
職員全体に占める手当支給職員の割合（平成19年度）	4.3 %		
手当の種類（手当数）	2		
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価
伝染病防疫作業手当	伝染病防疫に従事する職員	伝染病患者の救護・伝染病菌付着物件処理業務	日額上限800円
診療所勤務手当	患者に接する業務に従事する医師・看護師・その他の職員	診療所患者応対業務	日額：医師20,000円 看護師、その他の職員 上限2,000円

(5) 時間外勤務手当

支給実績（平成19年度決算）	6,046 千円
職員1人当たり平均支給年額（19年度決算）	163 千円
支給実績（平成18年度決算）	3,958 千円
職員1人当たり平均支給年額（18年度決算）	82 千円

(6) その他の手当（平成20年4月1日現在）

手当名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績（19年度決算）	支給職員1人当たり平均支給年額（19年度決算）
扶養手当	<ul style="list-style-type: none"> 配偶者 13,000円 扶養親族（配偶者除く） 6,500円（配偶者がいない場合の1人目） 11,000円 満16歳の年度初から満22歳の年度末までの子1人につき5,000円加算 	同じ		8,876千円	268,955円
住居手当	<ul style="list-style-type: none"> 借家の場合（家賃が12,000円を超える場合に限る） 額に応じて21,600円を限度に支給 自宅の場合 2,000円（新築または購入の日から5年間） 	異なる	20%減額	1,707千円	142,240円
通勤手当	<ul style="list-style-type: none"> 自動車等の使用者 距離区分に応じ、1,600円～19,600円を支給 交通機関利用者 最高支給限度額 55,000円 	異なる	20%減額	2,633千円	87,755円
管理職手当	管理監督の地位にある職員に支給 課長 給料月額×9% 主幹 給料月額×6%	異なる	支給割合	3,246千円	311,413円
宿日直手当	1回 2,800円	異なる	支給額	1,380千円	37,308円

5 特別職の報酬等の状況（平成20年4月1日現在）

区 分		給 料		月 額 等	
給 料	村 長	660,000	円	(参考) 類似団体における最高/最低額 840,000 円 / 340,000 円	
	副 村 長	580,000	円	705,000 円 / 346,000 円	
報 酬	議 長	200,000	円	395,000 円 / 120,000 円	
	副 議 長	170,000	円	310,000 円 / 93,300 円	
	議 員	160,000	円	290,000 円 / 79,600 円	
期 末 手 当	村 長 副 村 長	(平成19年度支給割合) 3.25 月分			
	議 長 副 議 長 議 員	(平成19年度支給割合) 3.25 月分			
退 職 手 当	村 長	(算定方式)	(1期の手当額)	(支給時期)	
	副 村 長	給料月額×在職年数×520/100	1,373万円	任期毎	
	備 考	給料月額×在職年数×330/100	766万円	任期毎	

(注) 退職手当の「1期の手当額」は、4月1日現在の給料月額及び支給率に基づき、1期（4年＝48月）勤めた場合における退職手当の見込額である。

6 職員数の状況

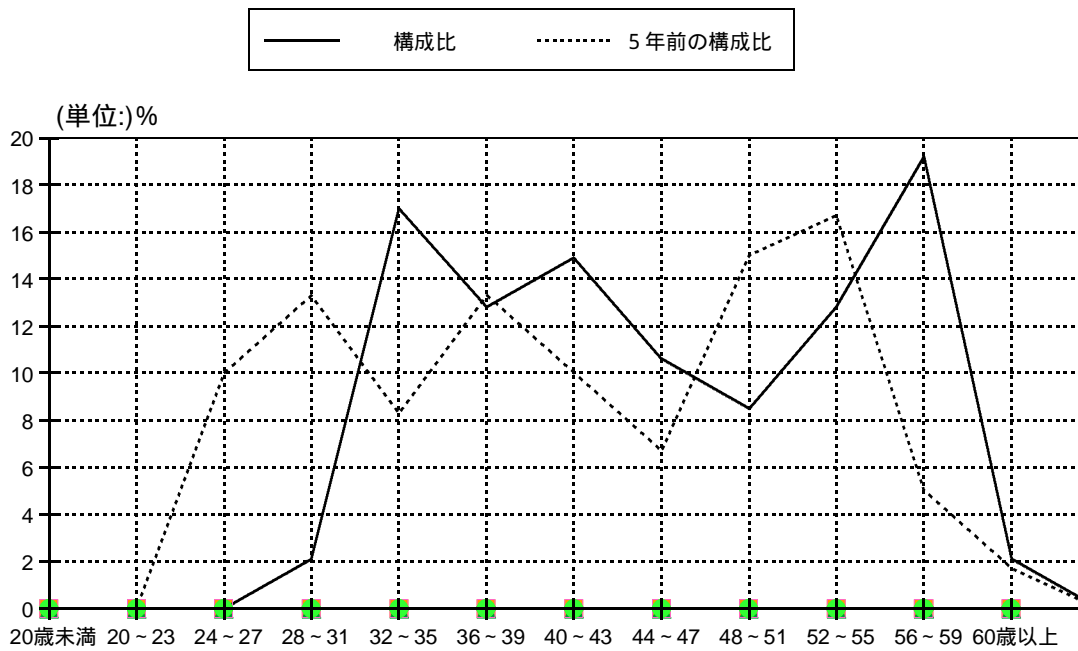
(1) 部門別職員数の状況と主な増減理由

区 分			職 員 数		対 前 年 増 減 数	主 な 増 減 理 由
部 門			平成19年	平成20年		
普 通 会 計 部 門	一 般 行 政 部 門	議 会	1	1	0	企画開発業務の事務縮小
		総 務	12	11	1	
		税 務	1	1	0	
		農 水	5	5	0	
		商 工	2	2	0	
土 木		4	4	0		
民 生		6	5	1		
衛 生	3	4	1			
計		34	33	1	退職に伴う減 衛生一般業務の充実	
	教 育 部 門		8	8	0	
	消 防 部 門		0	0	0	
	小 計		8	8	0	
公 営 企 業 等 部 門	そ の 他		6	6	0	
	小 計		6	6	0	
合 計			48	47	1	
			[65]	[65]		

(注) 1 職員数は一般職に属する職員数である。

2 []内は、条例定数の合計である。

(2) 年齢別職員構成の状況（平成20年4月1日現在）



区分	20歳未満	20歳 23歳	24歳 27歳	28歳 31歳	32歳 35歳	36歳 39歳	40歳 43歳	44歳 47歳	48歳 51歳	52歳 55歳	56歳 59歳	60歳 以上	計
職員数	0人	0人	0人	1人	8人	6人	7人	5人	4人	6人	9人	1人	47人

(3) 定員管理の数値目標及び進捗状況

平成17年4月1日～平成22年4月1日における定員管理の数値目標

平成17年4月1日 職員数	平成22年4月1日 職員数	純減数	純減率
40人	35人	5人	12.5%

(参考) 集中改革プランにおける定員管理の数値目標(数・率)

計画期間		数値目標
始期	終期	
平成17年4月1日	平成22年3月31日	5名純減

定員管理の数値目標の年次別進捗状況（実績）の概要

（各年4月1日現在）

区 分		17年 計画始期	18年 1年目	19年 2年目	20年 3年目	17年～20年 計	（参考） 数値目標
一般行政	職員数	40	36	34	33	-	35
	増 減	/	4	2	1	7 (140%)	5
教 育	職員数	7	8	8	8	-	
	増 減	/	1	0	0	1 (%)	
消 防	職員数	0	0	0	0	-	
	増 減	/	0	0	0	(%)	
公営企業 等 会 計	職員数	9	8	6	6	-	
	増 減	/	1	2	0	3 (%)	
計	職員数	56	52	48	47	-	
	増 減	/	4	4	1	9 (%)	

（注）1 計画期間は、17年～22年の5年間である。

2 (%)内の数値は、数値目標に対する進捗率を示す。

3 増減は、各年の欄にあっては対前年比の職員増減数を、計の欄にあっては計画1年目以降現年までの職員増減数の累計を示す。